



地域の期待を全身に受けて!! 3月11日第33回御船地区対抗駅伝

あなたと議会の情報ネットワーク

あおぞら21

学校内を禁煙にできぬか 一般質問	2
田中前議長・地域主権戦略会議のメンバーに ...	6
焼却や埋め立てに頼らない	8
この地で生まれこの町に住み	10





Q 学校を敷地内禁煙にできないのか

A 校長会やPTA役員会で検討する

田上 忍 議員

田上議員 御船中は荒れている。学力も低下していると聞くが現状はどうか。

増永教育長 「荒れている」という表現は適切でない。以前は髪を染めたり、校外での問題行動も多く見られ、地域からの苦情も多かったが現在は激減し、逆に生徒の親切な行動などの電話もある。しかし、9月議会で答弁したように心配している部分もあり、配慮が必要な生徒もいる。校長を中心に一生懸命取り組んでいるので教育委員会も最大限の支援をしていく。

御船中の学力はN R Tの標準学力検査の結果でみると全国平均レベルである。今後、全国平均を超えるように努力していく。

「御船中へ通わせないで、他の中学校へ通わせている」については家庭の都合で転居、県立中や、私立中等への進学である。もし、御船中に魅力がなく私立中へ進学なら大変不本意なことなので、魅力ある中学校にしたい。

田上議員 学校経営はどうあるべきと考えるか。小・中連携の取り組みはなされているか。

増永教育長 一言で言えば、知育・徳育・体育のバランスがとれた学校経営。保護者や地域の協力も必要であり、県教委との連携も必要。

小・中連携は、校長会、生徒指導担当者会、人権教育主任会、特別支援教育研究会、養護教諭部会、幼保小中連携連絡協議会などを通して取り組んでいる。

田上議員 朝ごはんを食べていない児童・生徒がいると聞くがどうか。

増永教育長 朝ご飯の大切さは「幼・保、小、中連携連絡協議会」で、「基

本的な生活習慣」をはぐくむ連携カリキュラムを作成し訴えている。来年度は、その「めざす子ども像」の中に「朝ご飯は、必ず食べよう」を入れて、取り組む予定。教育委員会主導で朝ご飯の大切さについての講演会を計画している。

田上議員 御船中の敷地内にたばこの吸い殻が落ちていたと聞く。誰が吸って捨てたかは定かでないが学校を敷地内禁煙にできないのか。

増永教育長 御船町の全ての学校で分煙が徹底されている。敷地内禁煙には、保護者と地域の理解と協力が必要。中学生の生徒指導や健康を守る問題でもある。今後町の校長会や各学校のPTA役員会で検討してもらう。

田上議員 特別支援の必要な生徒や不登校の対応はどうなっているか。

増永教育長 御船中には、知的障害学級があり、来年度は自閉症・情緒障害学級ができる予定。通常学級にも支援を要する児童・生徒がいるので、町独自の予算で特別支援教育支

援員を配置している。御船中には、3人の支援員と1人の心の相談員を配置。来年度は支援員を1人増やす予定。不登校対策も行う。

田上議員 スクールカウンセラーの活用状況はどうなっているか。(県の事業)

増永教育長 スクールカウンセラーの活用状況は、1月までで生徒61件、保護者9件、教職員34件の相談。週1回6時間、年間210時間。カウンセリングを必要とする生徒、保護者、教職員が増えており増やしたいが財政上の問題がある。財政当局と相談しながら、前向きに検討したい。

田上議員 消えかかっている横断歩道や白線。街灯のない暗い通学路などがあり、通学路の危険防止対策はどうなっているか。

増永教育長 通学路の点検は、校長会を通じて各学校で実施し、担当課へ街灯の設置などをお願いしている。

田上議員 御船町の宝である子どもたちへの予算はできる限り使って欲しい。



家庭科授業 ～2月15日学校へ行こうデーにて～

Q 給食センター建設の予定地はどこか

A 御船小を中心に検討中

藤川 博和 議員



一般質問

藤川議員 御船小学校の敷地は狭く現状でも遊具を設置する場所もないという状況であるが、給食センター建設はどの場所を考えているのか。

また、七滝中央小学校を除く平坦部の小中学校の給食センターへの移行はどのように考えているのか。

米満学校教育課長 場所は平成21年12月の議会にて、町長から御船小学校を中心に考えていき、運用面でも、平成21年12月議会にて、御船小学校・御船中学校を共同調理場として、耐用年数が過ぎた学校から、順次センター方式に10年かけて移行すると説明している。

藤川議員 具体的に用地を決めるのは、いつ頃になるのか。

米満課長 用地については、まだ決定していない。

山本町長 町の中心部は都市計画の用途地域であるので用途制限が少ない御船小学校に建設を検討していた。しかし、御船小学校は改築工事により敷地も狭くなってきたので、4～5案を視野に入れ検討している。まずは御船小学校を第1案に、第2案を御船中学校、例えばテニスコート場、校舎に隣接して運搬に便利、第3案は、御船中学校裏の農地、第4案は、御船小学校北側にある農地、第5案は、当初甲斐町長時代からのタバコ耕作組合跡地など、用途問題を考えながら検討していく。もう1つは、用途地域以外で都市計画には問題ない場所も視野に入れているが用地購入に資金が必要である。子どもの安全・安心、遊具施設の問題、車両での運搬など、もう一度いろんな面を検討して決定したい。

藤川議員 用地を決めてから、設計の段階となるが、建設工事の着工、



改築が進んでいる御船小学校

完成はいつになるのか。

山本町長 10月までに用地を決定し、平成24年度に基本設計、平成25年度に実施設計、工事着工、平成25年度に完成を予定している。前回の報告からは、2年遅れている。

藤川議員 給食センターの完成後は、どのような運営を計画なのか。

企画財政課より給食センター方式について、町内全小中学校対象（1,700食）で、施設面積1,000㎡で公設公営の施設と仮定し、この給食センター方式で行うと人件費の削減効果額は800万円（非常勤職員5人減）で積算されているが、この計画案はそのまま継続されているのか。

また給食センター方式では、一般職員何人、非常勤何人で運用される計画なのか。

米満課長 平成23年度小中学校の児童生徒数は、1,269人、教職員数164人なので、1,500食分をつくる給食センター建設を計画している。

今のところ施設面積などの設計に入っていない、職員数も具体的に考えていない。

山本町長 平成21年11月に計画書を作成した時点では、給食員数8人、非常勤職員10人で運営の計画だったが、平成24年10月に老人ホームオアシスの民間譲渡に伴い、職員8人を給食職員へ異動する予定である。正職員の自然減で行くと平成40年には公設民営も可能になる。

藤川議員 食育フォーラムに書かれてある内容から、共同調理方式（公設公営）で計画されているが、各学校の給食室が耐用年数を経過後、その都度センター方式に移行する計画とされているが今でもその考えか。

山本町長 御船小学校・御船中学校は耐用年数が過ぎ、給食センター完成時には木倉小学校も耐用年数が過ぎるので、3校で運用し、その都度耐用年数が過ぎた学校からセンター方式へ移行する方針である。

一般質問



Q センター方式は財政削減にならない!

A センター方式は決めたこと

福永 啓 議員

福永議員 給食センターを御船小学校か中学校に建設する案があるが、両校は現状でも校地が非常に狭い。センターを建設すればさらなる教育環境悪化が懸念されるが、どう思うか。

増永教育長 そのようなことも考えて、外部にセンターを建設する案も検討している。

福永議員 町は【自校式継続】【学校内にセンター建設】【学校外の土地購入しセンター建設】各パターンで今後19年間の経費を試算している。ところがその試算では、学校内にセンターを建設する案と自校式継続の案において年300万円程度しか変わらない。また、学校外に土地を購入し建設する案になると、逆に自校式のほうが安くなる。きちんと試算して、それらに基づいて計画を進めなければならない。

山本町長 給食センターにすることは決めたこと、その中からいろんな案を検討していく。福永議員の試算に人件費は含まれているのか。老人ホーム民営化に伴う人員の配置問題は含まれているのか。

福永議員 この試算は私が作ったものではない、町が作ったもの、人件費等は当然含まれている。財政問題がきっかけで給食センター建設計画が浮上した。財政問題を抜きにすれば自校式が食育上有利であることは町民共通の理解であるし、食育基本法制定過程などを見ても明らか。一方で「どちらかといえば自校式がいいけどお金がかかるんだったらセンターも仕方がない」という意見もある。しかし、センター方式にしてみたら結局財政的な貢献は出来ず、重要な教育施設である自校式給食がな

くなってしまっただけ、となったら悲劇だ。町長は、決めたことだから自校式より高くなろうともセンター建設をすすめるのか。

山本町長 給食センター建設における経過を理解してほしい。検討委員会を開き、提言を受け、3年間にわたり町民の意見を聞きながら決めたこと。この経過を無視して自校式の検討はできない。

福永議員 経過はよく理解している。検討委員会の提言にあるのは、どちらが良いということではなく、食育等面から見たら自校式が有利、財政面で見たらセンター方式が有利ということ。自校式より高くなろうともセンター建設をすすめることは、逆にこれまでの検討経過や提言を無視することになる。

山本町長 私はただの「おっさん」なのか。誰が決めるのか。

福永議員 最終的に決めるのは議決機関である議会。町長は議会に提案する立場。

山本町長 建設予定地については、きちんと説明できるように10月を目処にやっていきたい。

福永議員 町営住宅は老朽化が進んでいるが、ここ20年近く建て替えも新築も行われていない。その理由をどう考えているか。

米満学校教育課長 道路が整備され、民間集合住宅建

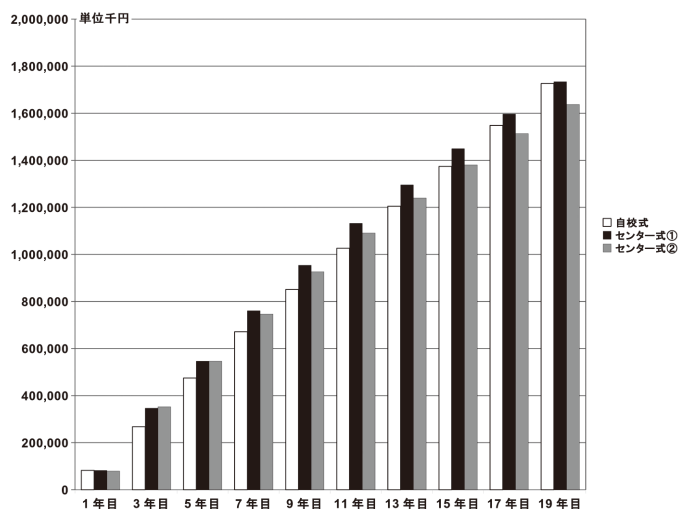
設が進んでいるということと、町の財政問題があるとおもう。

福永議員 御船町は、人口増加している市町村と比較しても地の利は劣っていないにもかかわらず、人口は10年以上減少が進んでいる。町営住宅を利用して子育て世代等の定住施策を考えているか。

山本町長 他県で町営住宅を町の活性化に利用している例もあるが、町営住宅は所得制限もあり、定住政策とは別で、低所得者福祉のためにあると思う。来年度に計画を立てて、補修や住み替えなどを進めていきたい。

福永議員 来年度から法律が改正され、建設時50%の補助がある町営住宅も、所得制限に町の裁量が幅広く認められ、子育て世代等に対する定住促進住宅として利用することも可能になる。御船町産の木材を使い町内業者が町営住宅を立てれば、林業再生や御船町産材の市場開拓、地元業者育成にもつながるのではないか。

山本町長 良い提案なので、来年からの計画策定の際検討していきたい。



給食方式経費積算 (町試算)

Q 恐竜の郷を活かし、祭り創設を

A シンボルロードをほこ天に 今の祭りを充実させたい

佐藤 俊明 議員



一般質問

佐藤議員 町には今年40回目を迎える、があ〜っぱ祭りがある。40年前は東京オリンピック後の経済成長が著しい時代であり、「消費は美德」と言われる時代でもあった。あれから40年。町民のニーズも多様化をし、特に昨年は東日本大震災もあり、節約や省エネ活動が主流となっている。

があ〜っぱ祭りが生まれた背景には高度な経済成長と町村合併後もない時期に、町民のいわゆる絆を深めるものであったと思う。そのがあ〜っぱ祭りはその初期の目的を十分果たしたと思うがどうか。

山本町長 があ〜っぱ祭りは今年40年を迎える記念の年。またシンボルロードも7月には開通する。があ〜っぱ祭り振興会でも中学校を中心とし、シンボルロードを歩行者天国にして祭りができないか検討中だ。

佐藤議員 つい先日の2月19日に行われた、第一回熊本城マラソンには1万人の参加があり、大変な盛り上がりを見せた。楽しく汗をかく、健康志向の表れとも言われた。

イベントに参加をされる方々の多くは無理せず、気軽に、健康作りができることに重きを置いておられるようだ。

恐竜の化石が発掘され約30年になる。恐竜の町として全国に発信をしているところであるが、さらに印象を深めるために、ふれあい公園やシンボルロード、国道445号線の全線開通などに合わせた恐竜の郷を活かした祭りの創

設はできないか。また、町は「いきいき健康御船町」を標榜しており、新たな町の健康づくりへのステップとしての祭りを企画してはどうか。

山本町長 恐竜の化石が発掘されて30年になる。平成25年には新たな博物館もできる。佐藤議員の提案を活かしながら全体的なPRのスタートとしたい。

増永教育長 恐竜は町にとって、とても大切なもの。25年に恐竜博物館が完成する。企画を練り盛り上げたい。

佐藤議員 最近では「ひょっこり」が町内にも広がりを見せているが、九州はもとより全国に愛好家がおられるとの事。この「ひょっこり」は岩手県江刺地区に伝わる民話がルーツとか。

赤い着物に白い帯、白いふんどしをつけ、豆絞りの手ぬぐいをかぶった、狐やひょっこ、オカメなどが笛や鐘、太鼓の軽快なリズムに乗って手や足、首と体全体を使ってコミ

カルに踊る。この光景を見た人は笑わずにおられない、大変ユーモラスな踊りでもある。

町でも愛好家が増えられ、老人ホームなどいろんな所へ出かけられ、活動をしておられる。笑いを提供しておられる。

このように笑いを提供するひょっこ祭りサミットなるものを企画し、恐竜の郷祭りと一体となった取り組みなどの考えはないか。

山本町長 ひょっこりも民笑会などで拡がりをみせている。祭りには歴史がある。変更するには位置づけが大事。「変更する時には慎重に」と言われるが、今の祭りを充実させながらPR活動につなげたい。

佐藤議員 笑わずにいられないひょっこり踊り。この踊りの輪も全国に展開中だ。全国に先駆けてひょっこりサミットなるものを計画してはどうか。

山本町長 楽しんで参加できる仕組みづくりを考えたい。



ユーモラスなひょっこり踊り

2月定例議会

耐震補強の設計変更は妥当か

議会は2月23日、本会議を開いた。議案は町長の専決事項の指定に基づく専決処分の報告が5件、条例制定が1件、一般会計補正予算(第13号)についての1件であった。条例案(御船町地域情報通信基盤施設管理運営基金条例の制定)、補正予算案(主に、県知事選挙に伴う経費)とも全員一致で可決された。

主な質疑 専決処分の報告

◆工事請負変更契約の締結について

御船中学校校舎耐震補強改修工事に、高圧水洗(圧力10~15pa)による既存塗膜の洗浄及び脆弱部除去に変更、1,296,379円の減額の報告があった。

藤川議員 設計変更はいつ出したの

か。

米満学校教育課長 H23年10月27日に変更指示書を出した。H21年度に目視調査を行い全面調査は行っていない。施工業者より安い工法で工事ができるとの報告があった。

藤川議員 最初から設計が間違っていたのではないか。

米満課長 町は、専門業者に設計を委託して工事発注を行っている。変

更が生じたら変更契約をして正しいか見極めて行った。



工事が済んだ御船中

2月の
行事

田中前議長地域主権戦略会議のメンバーに

議長 岩田 重成

2月は、5議会の視察受入れを行った。今年度の視察受入れは29議会等で約300人となった。

10日に行った議会モニター、アドバイザー会議は、議会基本条例制定後年1回開催することとしている。今回もモニター各位から様々な提言をいただいた。今後の議会活動に活かしていきたい。

17日は佐賀県杵藤地区議員研修会に講演を依頼され参加した。議会報告会の開催や議会基本条例の制定などぜひ実践していただきたいと思う。

23日、前議長を務めた田中隆敏議員が、国の出先機関改革などを議論する政府の「地域主権戦略会議」(議長・野田佳彦首相)のメンバーに選出された。全国の町村議会の議員がメンバーに選ばれるのは初めてのことだ。26日に開催された自治基本条例シンポジウムの中で、北川正恭早稲田大学院教授も「御船町にとって大変すばらしいことだ」と熱弁された。田中議員の今後の活躍を祈念する。



議長講演

2月の議会の動き

- | | |
|--|--|
| 1日 九州中央自動車道提言活動
(~3日)
京都府久御山町議会・
大分県由布市議会
視察受入れ(議会運営委員会) | 14日 御船甲佐衛生施設組合議会
民生文教常任委員会視察研修
水保市・多良木町(~15日)
新議員研修(自治会館) |
| 8日 消防組合議会
大分県九重町議会・
鹿児島県南大隅町議会
視察受入れ(総務常任委員会) | 15日 袴野組合議会及び研修
(~16日) |
| 10日 全員協議会
議会モニター・アドバイザー
合同会議 | 17日 御船地区衛生施設組合議会
佐賀県杵藤地区議員研修会 |
| | 22日 長崎県東彼杵町視察受入れ
(産業建設常任委員会)
県議会定期総会 |
| | 23日 議会
議会改革特別委員会 |
| | 24日 広域連合議会 |
| | 26日 自治基本条例シンポジウム |
| | 28日 議会運営委員会 |

総合計画で4年後、8年後が見えるか

議会モニター・アドバイザー合同会議

議会モニター・アドバイザー合同会議を、2月10日に開いた。

中島モニター 一般の企業では職務の兼務は良くあるが議会では、委員会の兼務は認められないのか。

田口アドバイザー 制限はない。

中熊モニター 五木村の議会が20年の4月に議員の成果主義の導入をしている。全国に議員としての成果主義の導入はあるのか。

田口アドバイザー 今のところない。

池田モニター 議会基本条例と後からできる自治基本条例との規範性はどちらが優先されるか。

田口アドバイザー 法律だと後からの方が優先される原則があるが、裁判で争われる原則ですからあまり気にする必要は無い。

下野モニター 議会報告会のこれまでの分析はもちろんされていると思うが、内容は今のままでよいのか。

私は、総合計画の町民会議に入っているがH13年に前町長が作られた総合計画書を全ページ読んでチェックし今回の会議には臨んでいる。過去10年間で構想にのりながら、重要なところが、いくつも

欠落している。予算見積までしてあるが実施していない。3月議会は、総合計画を審議する特別議会を2日ぐらい開いても良いと思う。4年後、8年後の町を見ていただくための素案であれば審議する時間をとっても良いのでは。最後に委員会、議会は開催されているが、町民に対する開催の広報を充実してもらいたい。

あおぞら会議を開く

今回の合同会議の意見をふまえ、

議会報告会のあり方についての検討を今後全員協議会で行っていく。

また、御船町基本構想及び総合計画については審議会や町民会議のメンバーと3月19日にあおぞら会議を開催する。3月末に議会を開き審議する予定である。結果については4月末発行の議会だよりで伝えていく。

議会の予定についてはなるべく早く町民の皆さんに伝えられるよう広報に努める。



参加者全員を前に質疑に答える

政治の根本は政策

田口議会アドバイザー講演

2月10日、御船町議会アドバイザーの田口一博氏から、議員の処遇について講演をいただいた。

明治以降続いてきた人口に比例する議員定数についての考え方は、2011年の地方自治法改正で廃止された、議会制度



政治の根本について講演された

の充実のために自由度が高められた改正をどう生かすべきか、議員定数と報酬の考え方から話が進められた。また、国政・地方問わず投票率は全般的に低下傾向を続けている現状に触れ、議会議員の要求される職務と処遇の関係を説明された。投票については、衆議院議員選挙や参議院議員選挙で若干持ち直したとはいえ、50～60%程度である。若い有権者の投票率が低いのは、他の世代に比べて、政治的無関心、投票義務感、政治の有効性感覚が低いからであると考えられている。

「主権者教育」という新しい概念を紹介された。主権者が政策を提言して、政策の実現を果たしていく事が重要である。貯金が大事だと教えてもお金の大切さはわからない。選挙が大事だと教えても政治には興味がわからない。政治の根本は政策である。手段としての選挙を強調しても、政策に興味がない。政治的・社会的に関係の深い問題を取り上げて、関心を持たせる事が重要であり、その事を教育していくのが政治家の役目である。目的を志向しながら選挙の最終目的である政策に関心を持たせるよう、これからどうすべきかを発信して、町民の声を聞いていくべきだと感じた。

ごみ処理 焼却や埋め立てに頼らない

環境首都 みなまたに学ぶ

民生文教常任委員会研修

委員長 佐藤 俊明

ごみゼロをめざす水俣

民生文教常任委員会は2月14日「ごみ減量化」や「風土を活かした風景作り」など15の分野で採点した、自治体の環境問題への取り組みを競う「日本の環境首都コンテスト」で環境首都の称号を得た水俣市議会を視察した。

水俣市は1960年代に5万人いた人口が水俣病の影響で現在2万7千

人に。公害から学んだことは、負の個性から「水とごみと食べ物」に気をつけることとした。資源やエネルギーの消費を「できるだけ減らす」。暮らしの中で使うものを無駄なく「できるだけ回す」。自然に捨てなければならないごみを「限りなく減らす」。そのための暮らしや仕組みをみんなで作り支えていくこととし、ゼロ・ウェイスト水俣宣言をした。

国保税が足りない時 一世帯一万円まで 繰り入れ

多良木町議会を視察

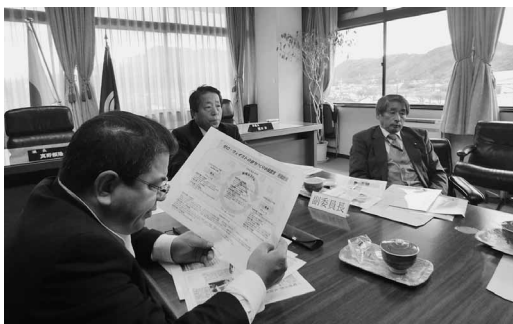
22年に国民健康保険税を引き上げた多良木町議会を2月15日視察した。

多良木町では生活習慣病な

どによる医療費の増加や、医療を必要とする高齢者が増え続けているため、国保税だけでは賄ができず、一般会計から繰り入れを行っている。その上限は一世帯あたり一万円以内としている。また国保税の基金を21年度、22年度で9,200万円取崩した。一般会計から繰り入れをすることは町の財政運営に大きな影響があり、国保加入者以外の町民にも負担を強いることとなる。22年度から国保税の値上げをした。

健康応援隊の育成

生活の質の向上、子供の頃からの生活習慣病の予防、健康寿命の延伸など健康づくり事業推進に取り組んでいる。



説明を受け、資料に目を通す議員

御船の農業をどう考えるか

産業建設常任委員会研修

委員 山田 五郎

2月22日御船町の野菜の現状及び地産地消取組み状況、冬場の野菜の作付け状況について栽培の現地視察と研修を行った。まず、七滝校区東上野で「菜の花」栽培をされている中川富美さんの畑に行き視察。品種は「花飾り花祭り」等あるそうだ。次に高木校区上高野で「チンゲン菜」

を栽培されている藤本隆盛さんの畑。次に小坂校区陣で「水前寺菜」を栽培されている田中隆敏さんの畑を視察した。水前寺菜は周年栽培できるが、今年は寒さが強いのでストーブを焚くが葉先が霜で傷んでしまう。ハウス栽培にしないと冬場は作物がダメになってしまうとのことだった。

ふれあい広場や恐竜博物館などに直販しこれが御船の特産品であると言える商品が必要だ。行政だけで無理であればJ Aなどとタイアップしながら加工所を作ってもらいたい。6次産業の今後の課題などが浮き上がってきた。米麦などで拡大しないと生き残れない農業になってきている。農

業の形態が変わってきた。そこを踏まえて御船町の農業はどう生き残っていくか行政、議会、住民で考えていく必要がある。吉村委員長は「農協の理事と意見交換会を考えている。山間地農業をどう考えているか聞きたい。行政、農協一緒になって山間地農業また御船町全体の農業の活性化について考えたいと思っている。」と話した。

研修をさまざまな角度から検証し話が進んだが山間地農業の後継者問題他、高齢化、補助金農業、耕作放棄地、加工所設置問題、流通、ネット販売などの話がでた。今後、吉村委員長が言われた農協理事との意見交換が非常に重要になると思う。1日でも早く将来明るい御船町の農業政策を委員会として考えていく。



水前寺菜、よーそだつとるナー

1分1秒でも早く現場へ

消防署建設予定地を決める

上益城消防組合議会報告

組合議員 塚本 勝紀・山田 五郎

2月8日に行われた。

上益城消防組合火災予防条例の一部改正、平成23年度上益城消防組合一般会計補正予算、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ210万1,000円を追加し、7億6,607万1,000円とした。平成24年度上益城消防組合一般会計予算は歳入歳出予算の総額それぞれ8億362万4,000円とし、第2条、地方自治法第235条の3、第2項

の規定による一時借入金の借り入れの最高額は3,000万円とした。

また、上益城消防署の新建設場所の説明があり、バイパス445号線沿いのコスモス御船店の裏あたりに、地権者と交渉され土地面積6,851.65㎡を予定。1分1秒でも早く救急、火災現場に着くためにも国道沿いが良く住民の避難場所、九州中央自動車道での車両事故にすばやく対応でき、ふれ

あい広場でのイベント等で救急患者にもすばやく対応でき、商業施設が増えていく中、企業にも安心を与え、買い物客などにも安心して買い物ができ24時間、住民に安心安全を与えられる他、職員駐車場を考え場所を選定し話を進めてきた。消防組合議会で承認されたので、4月から買収交渉を行う予定である。

御船町甲佐町衛生施設組合議会定例会報告

組合議員 田中 隆俊・増田 安至

2月14日に行われた。

第一号議案が平成23年度組合一般会計補正予算、第二号議案が平成24年度一般会計予算の二件。

一号議案は歳入歳出の総額に変更はなかったものの、定期昇給に伴う歳出予算の補正についての説明。

二号議案は24年度の一般会計予算で、歳入歳出がそれぞれ

274,379,000円である。内訳は均等割額と人口割額並びに交付税を加味した負担金が、御船町の120,704,000円と甲佐町の128,445,000円に使用料と財産収入繰入金・繰越金・諸収入などの合計。両議案ともに可決された。また、焼却場と火葬場の補修や延命化について、議論の方向性を判断するた

めの調査の必要性や具体的な内容について協議された。

組合長から今年の10月末までにごみ処理施設の補修整備計画についての取りまとめ、11月末までに計画書を国に提出する予定である事も報告された。

全国からの視察を傍聴したい

議会モニターより提言

全員協議会報告

平成24年2月10日開催

◇御船町での視察研修受け入れの際は、モニターとして傍聴をしてみたいとのこと。全員協議会として

は了承した。

◇議員全員の視察研修の際全議員はレポートを提出すべきでないのか。各議員の視点観点はそれぞれ異なっているので、各常任会の委員長（代理）が集約して広報等に掲載することとする。



大分県九重町議会、鹿児島県南大隅町議会（H23.2.8）

3月議会は7日間

議会運営委員会報告

委員長 田中 隆敏

2月28日（火）開いた。

3月会議を3月9日（金）から、3月15日（木）までの7日間とした。議案の上程、提案一般質問、議案の審議採決と初めての試みの日程とした。

今回の議会は、条例改正、23年度補正予算、24年度一般会計予算、24年度特別会会計予算、24年度特別会会計予算まで34本の議案が提案され、陳情3件は机上配布とした。一般質問は3名の議員から通告があった。

今後の議会活動に関し、独自研修会の開催、議員全体研修の調整、議会報告会の日程調整などを審議した。

また、総合計画（案）の審議について、議案提出前に総合計画審議会員及び策定委員とのあおぞら会議を行うこととした。



1丁目
栗崎 信夫 さん

この地で生まれこの町に住み

保育園、小学、中学、高校とこの町で学び、そして遊び生活仕事も、ほとんどこの町に携わってきました。その間PTAや商工会、地区の役員等組織の中で色々と勉強させてもらいました。今振り返りますとその時々多くの出会いと、親しみを持てたことが、一番の報酬なのかもしれません。

政治に関しても個人的にまた組織的に関与してまいりましたが、まず支援者も候補者も信念を持ってぶれないことが大切だと思います。

今日、議会の方でも改革の時と耳にしますが、まずその改革が誰のためなのかということが大事な処で、その成された改革を十分に生かしてほしいと思います。そのためには情報の機敏さとわかりやすさだと感じています。決定事項ばかりのお知らせでもなく、途中経過の情報でもいいのではないのでしょうか。

今、私は若者と楽しく熱く語り合うのを楽しみにしていますが、彼らから「おやじウザイ」とか、「熱すぎる」と言われます。自分の中では「それもありか」と微笑んでいます。

議員の皆様も前向きに熱く楽しく討論していただければと念じています。

最後にお知らせですが、只今があつぱ祭り企画部長を務めさせていただいています。が今回(第40回)の祭りを会場をシンボルロードの付近で計画中です。詳しくは今後広報誌でもお知らせ致します。

ご意見等ございましたら、役場(経済振興課)又は商工会まで連絡下さい。

新人研修(町村新議員研修会)

地方議会制度を学ぶ

2月14日、熊本県総務部市町村局市町村行政課の天野誠史主幹から地方議会制度について講義があった。



県内から集まった新人議員 (2月14日 自治会館)

地方議会制度について国会と地方議会を対照させながら、ともに分かりやすいプレゼンにまとめられており、

組織と運営、議会の権限と議決についても説明された。研修は、非常に理解しやすい内容であったので、もっと早い時期に受講出来れば良かったと感じた。

議会の予定 4月

- 1日 消防通常点検
- 4日 御船小学校落成式
- 5日 町立保育園入園式
- 9日 全員協議会
- 10日 町内小学校入学式
御船中学校入学式
- 12日 議会
- 18日 視察受入れ
- 26日 議会独自研修会

編集後記

通年議会となり、議会広報誌も毎月発行とした。議会の活動を逐一広報しようと懸命に取り組んでいる。毎月発行は他に類を見ないが、それでもほとんどの報告が一月以上の遅れ。

全国各地から議会改革の取り組みについて視察が相次いでいる。こちらも多くのことを学ばせていただいている。ありがたい。議会改革イコール町民目線に近づくのではない。

インターネットによる、一般質問の録画中継を配信している。ぜひご覧。この機会に議会広報についてアンケートを取り、更なる飛躍の糧としたい。

(佐藤 俊明)

議会広報編集常任委員会

委員長	岩田 重成
副委員長	田上 忍
委員	山田 五郎
委員	佐藤 俊明
委員	田中 隆敏
委員	永山 和人
委員	増田 安至